

私の中学生時代

平成 28 年 9 月

私の入学した中学校は近江鉄道の市辺駅前に近隣の市町村が共同して作られたばかりの組合立蒲生中学校である。

担任は英語の先生ですべてがハイカラであった。「君達は昭和の年号ではなく、西暦で覚えよ。君達はこれからは世界に羽ばたいていくのだから昭和では世界に通用しない」が口癖だった。

確かに西暦で覚えると便利である。例えば母の誕生日は 1900 年、私を生んだのは 1940 年、死んだのは 1980 年である。父は母より 6 歳上で、死んだのは母より一年前である。今年が父の 37 回忌で、来年は母の 37 回忌であることはお寺の過去帳をみるまでもないことである。

その先生が校内弁論大会に私をクラス代表に選出してくれた上にタイトルまで示唆してくれた。題は「死ぬのはいやだ」であった。

1754 年 3 月 1 日ビキニ環礁でアメリカ軍の水爆実験で死の灰を浴び、マグロ漁船の通信長であった久保山愛吉さんがその半年後に 40 歳で亡くなった。広島や長崎に原爆が投下された 10 年後でも、もっと強力な爆弾が開発されていたのである。核の恐ろしさを訴えて弁論大会で 3 位の賞をもらった。今でも第 5 福竜丸の話が出るとすぐに 1954 年の年号と自分の中学 2 年生の秋を瞬時に思い出される。

あれから 63 年がたった。『ふるさと』の 3 番の歌詞に「こころざしをはたしていつの日にか帰らん」というフレーズがある。

「せっかく世界に羽ばたく」ように期待して世に送り出してくれた恩師に対し、ちっとも世界に羽ばたけずに武蔵野の見沼田甫に土着している自分をはがゆく思う

ちなみに 9 月 23 日は久保山愛吉さんの 63 回忌である。

山田 正(川口市在住・近江八幡市出身)